

現在の感染状況に対する分科会から
政府への提言
令和2年10月15日（木）

新型コロナウイルス感染症対策分科会

10月13日新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードにおいて感染状況の評価をいただいた。分科会としては、現状の状況の背景に何があるのかを議論し、そのうえで、政府に対して以下のことを提言させていただきたい。

1. 現在の状況

- (1) 最近の感染状況を見ると、感染の「増加要因」と「減少要因」が拮抗しており、多くの都道府県で大幅な増加がみられない一方で、急激な減少もみられない状況が続いている。
 - ・ 「増加要因」としては、連休中の人の移動にもみられるように、なるべく「普通の生活」に戻りたいという気持ちが社会で醸成され、人々の活動が活発化している。そうした中、クラスター発生の場面も多様化していることなど、が挙げられる。
 - ・ 一方、「減少要因」としては、感染リスクの高い場面が明らかになりつつあり、人々が感染リスクの高い場所・行動を控えている。一方、クラスターが発生した場合でも、これまでの経験を活かし、関係者が迅速かつ効果的な対応をとってきたことなど、も挙げられる。
- (2) しかし、現在の拮抗状況は、この2つの要因のバランス次第で、いつ崩れてもおかしくない。事実、全国的に7月末のピーク時から減少～横ばい傾向を経たうえで、地域によっては増加傾向を示すに至っている。特に、クラスターの連鎖が発生した場合に、上昇に転じるリスクを抱えている。

2. 政府への提言

- (1) クラスターがどのような状況で発生するのか徐々に分析が進んできたが、さらに専門家としても詳細な分析を進めるので、政府においては、そうした分析を踏まえ、どのような具体的な行動がリスクが高いか、低いか、国民に分かりやすく説明していただきたい。これからもクラスターは発生する可能性があるが、感染拡大防止には早期のクラスター対応が有効と分かってきたので、関係者にはクラスターが発生した場合には、早期に適切な対応を行うことを求めたい。
- (2) なお、感染状況は地域によって異なるので、各地域の感染状況のステージ等の状況を考慮して、各都道府県は、国と協力して、地域の実情に応じた効果的な対策をとっていただきたい。